

# 台湾パイナップル



子供の頃、「台湾バナナ」は食べた記憶があります。フィリピン産より小ぶりで甘く、こちらの商品の方が好きでした。最近ほとんど見かけません。今年の春に「台湾パイナップル」が存在することを初めて知りました。日頃スーパーなどで売られているのはフィリピン産でごく少量ですが沖縄産もあるそうです。台湾パイナップルの昨年の日本への輸出量は2,100 tで一般の市場には出回りにくかったようです。またフィリピン産よりも小ぶりにもかかわらず値段は高いというせいもあったかも知れません。また、その輸出先は9割以上が中国です。



台湾パインの最盛期は4月から6月頃です。これからそのシーズンをまさに迎えようとする3月、9割以上を輸入していた中国が検閲上の問題を理由に無期限の輸入処置をしました。輸入されたパインの中に害虫が入っていたそうです。あの国は本当に困ったもので、いつも都合よく虫が入っていると難癖をつけます。以前、オーストラリアの大麦や家畜用干し草など



も同じ難癖をつけたはずです。どの口が言うのか腹立たしい限りです。過去に我が国に輸入された中国産冷凍餃子に段ボ

ールのみじん切りが混入されていたことを忘れてはなりません。台湾を国際社会へ復帰させる道筋を示したトランプ政権をバイデン政権も継続することに対しての嫌がらせであることが想像されます。



そんな今回の台湾に救いの手を差し伸べたのが日本国民です。「恩」を忘れてはいませんでした。10年前の「東日本大震災」の時にいち早く、それに加え世界一多額の義援金を送ってくれたのが台湾の人々です。台湾国民一人当たり千数百円にあたる金額だそうです。その一年後、国立劇場で執り行われた「東日本大震災一周年と二周年追悼式」に、当時の民主党政権は、いくら親中派議員の集まりとは言え台湾の代表者を「来賓席」ではなく2階の一般席に座らせているという無礼なことをしています。そんなこともあり、特にネットのなかで、みんなで台湾パインを買おうではないかという気運が広がり、3月以降に出荷が急増し4月末までに7,311 tになりました。楽天などでも売り切れ状態でしたが、ゴールデンウィークころから近くの店頭で並ぶようになりました。私もさっそく購入しました。特徴は甘みも酸味もしっかりしていて味が濃いこと。柔らかく芯まで食べることができます。



中国がオーストラリアワインに規制をかけた際も台湾の蔡英文総統は「オーストラリアワインを飲もう」キャンペーンを政府で立ち上げています。中国から圧力をかけられても国と国とが助け合っていく大切さをパイナップルが教えてくれました。 俊徳丸